

主体的・創造的に取り組む社会科授業の工夫

— 模擬株式売買を通して —

前シカゴ日本人学校 教諭

兵庫県たつの市立御津中学校 教諭 植木基公

キーワード：金融教育，株式市場，世界金融危機，海外駐在員の子女教育

1. はじめに

昨年、米国発世界金融危機の影響から、米国に進出している日本企業の緊急撤退や人員削減が行われ、シカゴ日本人学校の生徒数も3分の1が減少した。世界経済の影響が、家庭生活や学校生活にまで影響し、多くの生徒がその影響を肌で感じている。さらに、新学習指導要領中学校社会科の改訂において、金融庁から「金融環境の変化の中で、国民自らの判断と責任で主体的に金融商品、サービス等を理解した上で選択することが求められており、そのために、金融の仕組みや取引ルール等に対する国民の理解を深めることが益々重要課題である」と要請があり、金融教育のより一層の推進が提言されている。

これまでの本校中学校社会科公民学習においては「習得・活用・探究」、「解釈・説明・論述」の育成などを重点課題とし、昨年度は「世界自由化貿易＝FTA」において、様々な立場、事象から生徒自身の考えを深めさせ、プレゼンテーション形式で授業を進めてきた。また、昨年から日本国内の新聞を購入し、中学部Podに「新聞熟読机」を置き生徒の目に触れやすいように掲示し、授業でも新聞を使い、生徒が経済問題について、興味・関心が持てるように呼びかけてきた。しかし、進んで経済面の記事に目を通す生徒は少ない。

そこで、本年度社会科公民では、生徒自らが経済（より身近なお金の使い方）について興味・関心を持ち、積極的に学習に取り組めるよう模擬形式の「株式売買」授業を計画した。「株」と聞いても生徒たちにはあまり縁がなく、興味を示す者も少ない。しかし、私たちの身の回りの商品やサービスを提供しているのは、ほとんどが株式会社であり、日々の株価の動きは経済や社会の動きを反映するとともに、株価自体の動きが、私たちの暮らしと深く関わり合っていることを理解させたい。科学技術の進歩が目覚ましく、コンピュータや携帯電話を用いたインターネットの普及など高度情報化が進展する今日の中で、たくましく生きていける生徒の育成を目指す。また、現地校米国教師から聞いた「アメリカの経済教育システム」米国での経済教育についての取り組みも、今回の授業を行う上で参考にした。

「アメリカの経済教育システム」について

日本では文部科学省が定めた学習指導要領や教科書検定制度があるが、アメリカにはそういう制度はない。経済教育に関しても国や、国に準ずる公的機関が定めた全米統一の学習指導要領は存在しない。その代わり、経済教育の指針とも言えるプログラム「幼稚園から高校までの経済学習の内容に関する全米標準」が、民間の非営利団体(NPO)「米国経済教育協議会(NCEE)」によって1997年に作られ、教育現場に採用されている。

アメリカでは各種の行政の権限は各州が持っており、経済教育に関しても、ワシントンD.C.にある連邦教育省(日本の文部科学省に相当する)は国家としての基本方針を決めてはいるものの、これは一種の勧告に過ぎない。実際のカリキュラムはNCEEの「全米標準」を基に各州が独自に決めている。コロラド州などいくつかの州では、教員が免許を更新する際に大学で経済の授業の単位を修得しなければならない制度がある。しかも、この単位取得にかかった経費は所得から控除できる。ブッシュ(父)大統領時代の80年代後半、どうしても学校できちんと教えるべき9つの科目として『読み』『数学』などとともに『経済』が指定され、カリキュラムのガイドラインを作る作業が始まる。『経済』が入れられたのは、生きていくために必要なあらゆることの基礎的なスキルだからだそう。

1991年にブッシュ政権を引き継いだクリントン民主党政権は「ゴーズ・トゥー・サウザンド・フォー・エデュケーション」というキャンペーンを行い、前政権時代の取り組みをさらに発展させた。NCEEは連邦教育省の指定を受け、1997年に現在の標準モデルを出版することになる。

2. 研究仮説

生徒は、仮想の投資家を演じることで、企業情報や国際情勢、政治、自然災害等が株価に大きく影響を与えることを考えながら、実体経済を体験的に学習することができる。また、株式の模擬売買を通して、経済社会に関する興味・関心を持たせ、その仕組みを理解させると共に、自ら将来の貯蓄方法を選択していく力を養うことができる。

3. 研究の視点

視点1 生徒自ら株式の模擬売買を体験することで、経済を身近なものとして考え、興味・関心を持つことができる。

視点2 株価の変動理由を様々な視点から考えることで、現在起きている国際問題や社会問題について理解を深めることができる。

4. 授業実践について

(1) 指導上の立場

- ・教材観 本教材は、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている現実の経済・社会の動きに気づかせることに適している。株式会社のしくみを理解し、会社を設立・経営していくうえで必要なもの、資金集めの方法を考えさせていく中で、普段は疎遠な経済や政治に興味を持たせることができる。さらに、株式投資のリスクを身をもって体験することで、財政管理をおこなえる消費者を育成することにも適している。
- ・生徒観 シカゴ日本人学校の生徒は、大変素直で、授業においても落ち着いた学習姿勢が身に付いている。また、しっかりとした考えをもって、子どものしつけをしている家庭が多く、本校教育活動においても大変協力的である。しかし、生徒の中には、海外で生活しているにもかかわらず、父親の仕事内容について知らなかったり、会社名さえも知らない生徒がいる。また、経済の動きについて興味を持っている者は少数である。
- ・指導観 株式の模擬売買を通して、企業の目的や資本主義経済の特徴をおおまかに理解させたい。また、将来自らの財政貯蓄のあり方について考えを深めさせる契機とし、短期的な利益の追求に陥らず、長期的で多面的かつ多角的に物事を考えさせる生徒の育成に努める。

(2) 学習課程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 前時に行った貯蓄についての学習を確認し、株式会社のしくみについて理解する。 ・株式の発行 ・株主 ・配当（利潤）も受け取り	○PowerPointを活用し、生徒の興味・関心を引きつける。 ○それぞれの貯蓄のメリット、デメリットを確認する。
2. 株式投資の概要・模擬株式投資について説明する。 株式会社（銘柄）の紹介 ・企業名、株価 ・企業事業、企業経営、規模 ・株価の変動	○将来自分の貯蓄方法を考える中で、短絡的ではなく、なぜ貯蓄をする必要があるのかを考え、長期的な視野から選択できるようにする。 ○株式会社名はフィクションであるが、似たような企業が実在することに気づかせる。プロジェクターを使い、表示が見やすいように工夫する。

<p>3. 貯蓄カードに記入し、預金方法や企業を選択した理由を話し合わせ、発表させる。</p> <p>100万円の資本金</p> <p>↓</p> <p>株式の購入 銀行へ預金 自宅のタンスの中</p> <p>4. 政治・経済状況、国際情勢から考え、株式売買をおこなう。</p> <p>5. 購入した株式会社の株価を確認する。さらに集計にまとめ感想を発表する。</p> <p>6. 次時の学習内容を連絡する。</p>	<p>○株式購入ゲームのやり方を全員が理解できるように、貯蓄カードに記入できているか机間指導を行う。</p> <p>○株式購入が、あまり専門的な内容にならないように注意する。</p> <p>○なるべく生徒が理解しやすいように株の売買での手数料、税金についてはふれない。</p> <p>○選択した企業の株式を購入した理由を考え、政治面・経済面・国際情勢等が株価に影響を与えていることに気づかせる。</p> <p>○株価は、需要である「買い」が供給である「売り」より多ければ値上がりし、供給（売り）が需要（買い）を上回れば値下がりすることを理解する。</p> <p>○自分が選んだ貯蓄方法の理由を具体的な理由をあげながら発表できるようにうながす。</p> <p>○発表時、資本金の上下だけにとらわれず、その原因を明らかにし、分析して発表できるように支援する。</p> <p>○本時の集計結果の原因から、需要と供給について学習することを説明する。</p>
--	--

5. 校内授業研究会事後研究協議会（まとめ）※米国補習校教諭にも参観していただき討議をする

[授業者自評]

- ※ 本校の生徒数減少→なぜか→不景気が大きな要因 というのが本時のプランの根幹であった。
- ※ 模擬株売買（を授業で取り上げたこと）は初めての試みである。
今はネット上でも模擬売買は可能である。
- ※ 基本的な用語は学習しての本時であった。大まかなキーワードが生徒から出ていたのでよかった。

[研究協議 他]

視点① 模擬株式売買という仮想の株式売買を行うことで、興味を持って学習に取り組むことができる。

協議内の質疑他	参観者の記載事項
<p>意：生徒の発想に対して、教師が一瞬の判断で応えていくには、それに応えられるだけのバックボーンが必要であり、とても難しいと思った。</p>	<p>◎生徒は自ら持つ知識や情報をもとに仮想株式売買に興味深く行っているように見られた。</p> <p>特に、反省・まとめの段階で情報授受の必要性への意見があったのは素晴らしい。</p> <p>◎ゲームの導入により興味関心が持続した。</p> <p>◎学習課題に“金”を絡ませることで、学習事項の浸透力が増すと思った。「仮想」→「事実」→「分析」がうまく構成されていると思った。</p> <p>・企業のオーナー名に知っている人物名を使うことは、その人物のイメージがあり思考の妨げにならないかと心配。その一方で、人物イメージが経済に及ぼす影響は実際にあるので、一長一短あるなと思い興味深く参観した。</p>

視点② 株式購入時において、国際情勢や政治、経済の動きが、株価を上下する要因となっていることに気づくことができる。

協議内の質疑他	参観者の記載事項
<p>質：業種やシミュレーターを絞るなどの類型化を意図的に行ったのか。</p> <p>答：普段の（既習の）知識を用いて考えられるようにした。それ以上の専門的広がりはこちらでは期待していない。</p> <p>質：株式の専門的見地から、同業種への偏り投資はしないなどの暗黙のルールがあるが、そこまで指導しなかったのは意図的か</p> <p>答：次時に『需要と供給について』学ぶ。本時はその前段階として、『社会経済のしくみを知る授業』として、授業構築をした。</p>	<p>◎授業の中で生徒から「エコポイント」「少子化」「男女平等」との言葉がてきたことからみて、これまでの授業の中で、政治経済の動きが株価に重要な影響を与えることを生徒自身、きちんと理解している。</p> <p>◎生徒の感想発表から『情報』というキーワードが何回も出ていた。模擬株式売買を通しての知識があったからと思う。</p> <p>◎この視点がこの授業の核だと思う。何が正しいかというのは、結果を知ることで逆方向の分析を行って、思考を鍛えていくのだなと思いつながりながら参観した。</p> <p>◎生徒の日本の情報量（インフルエンザ・エコポイント・高速道路1000円・GM問題などの）の大きさに驚いた。</p> <p>・生徒に与える資料に、会社数・株価に与える影響などの多くのファクターがありすぎて、選択の難しさがあつたのではないかとも思った。</p>

視点③ 友人の様々な考え方を聞くことで、多様な見方・考え方を深めることができる。

協議内の質疑他	参観者の記載事項
<p>意：（なぜ、その株を購入したか。あるいは、購入を避けたかについて）の意見交換をさせる時間があると、大いに深まったように思う。</p>	<p>◎個人で様々な考えをベースに株を購入していた。その根拠を発表させたことで、お互いの共感が得られていた。</p> <p>・個人で考える時間と、友人の意見を聞く、両方の時間があるともっと深まったように思う。</p>

視点④ その他授業の中で気付いたこと

協議内の質疑他	参観者の記載事項
<p>意：教師から提示したまとめの内容を、生徒から引き出すようイメージし、終末を工夫するのも授業構築の大きなポイントかと思う。</p> <p>意：株式の学習については、生産者の立場としての意見も大切だと思う。</p> <p>意：キャリア教育の流れで、小学校でも『株式ゲーム』『貿易ゲーム』は行うことがある。その際の留意事項として、情報収集の大切さとあわせて、株への関心は、金銭面だけでなく、その企業への“思い”も必要と聞いたことがある。</p> <p>意：授業者のレスポンスの深さを知り刺激になった。</p>	<p>・インフルエンザ発生→マスク需要増・抗インフルエンザ薬の開発まで など、株価上昇のポイントについての一連の説明があつてもよかった。</p> <p>・他の生徒の発表を聞かず、ひたすら自分自身の資産運用のために電卓をはじいている生徒が『情報収集しなければいけない』というのはいささか違和感があつた。</p> <p>・「かしこい消費者」というのがはたして何をどうとらえて賢いというのかという観点は、生徒に浸透しているのかが気になった。</p> <p>◎ユニークな実践の勉強になった。体験的な活動後の振り返りが重要だと再認識した。</p> <p>◎これから親が子へ教えたことの1番目が外国語で、2番目が『投資の仕方』であるという話を聞いたことがある。そういう意味でこれから大いに注目されていく分野であり、たいへんわかり易く説明されていた授業者は、NHKの解説員のようでした。</p> <p>◎生徒の「もし損をしても試してみようと思って…」の発言は過去の実績だけで判断するのではなく、起業を応援しようという気持ちの表れ。株式の個人取り込みの意図にそっていた。</p>